

取組項目	専門家との連携による質の高い調査への取組
組織名(市町名)	逆面エコ・アグリノ里(宇都宮市)

●構成員約50人(NPO法人GW西鬼怒・田原小学校を含)、非構成員約10人の参加で、8月には幹線排水路で、9月には稲を刈り取った後の田んぼで「生き物調査」を行った。調査に際しては、宇都宮大学の水谷教授、自然観察指導員の尾田氏を招き、生き物の採取の仕方や種類の特定等の説明を受けた。

●観察会終了後には、参加者と地元の人たちで調査結果を基に今と昔の種類の違いや、復活してきた生き物(タガメ等)について話し合った。

参加者からは、「子供達に生き物の名前を聞かれても答えられず、残念。大人も勉強しなくては。」「タガメなど最近少なくなったと言われる生き物も見られ貴重な体験であった。生き物に優しい環境をつくっていきたい。」などと意見が出され、有意義な体験であった。

●諸費用:網等、昼食・飲み物、アドバイザー代等で約9万円



取組項目	生物の生活史を考慮した施設の適正管理・外来種の駆除
組織名(市町名)	樋沢農地保全部会(那須塩原市)

●生物が多く生息するため池を、水抜きして清掃することで、生息環境の保全を行った。また、合わせてブラックバス、ブルーギルなどの外来種を捕獲し駆除を行った。

●捕獲したブラックバスは、調理して食べるなどした。



取組項目	生態系保全に向けたビオトープの設置
組織名(市町名)	竹原環境保全会(茂木町)

●12月中旬に遊休農地を活用し、地域生態系を保全するためのビオトープを設置した。

●延べ11人参加し、当地区は竹をシンボルに活動していることから、地域の竹を切り出して竹柵による囲いを造り、また、沢水を引き入れるなど、地域の資源を有効に活用した。

●今後は、当施設の維持管理、活用をしながら、地域の生きものを保全継承していきたいと考えている。

●要費用:約12万円(重機借り上げ代、日当等)



取組項目	生態系保全に向けたメダカの放流
組織名(市町名)	西沼めだかの郷環境保全会(真岡市)

●当地域は、ほ場整備事業により従来から生息していたメダカの保全を目標に保全池や保全水路の整備を行ってきた。そこで、当対策を利用し更なる保全を図るために、小学校と連携し保全池および隣接水田へのメダカの放流、周辺の生きもの調査を実施した。参加者は、75名(農業者26人、子ども達を含む非農業者49名)であり、盛大であった。

●メダカの生息地域を拡大するため、保全池と隣接水田をつなぎ、メダカが行き来できるようにしている。
メダカは、池の浚渫のため、昨年度各戸へ避難させておいたものを持ち寄り、放流した。

●子ども達のみならず、参加した大人達も生きものの大切さを学んで、今後とも保全池を中心とした地域生態系を保全していきたいと考えている。

●要費用:約10万円(生きもの調査費用含む)



取組項目	多くの参加による生きものの保全の取組
組織名(市町名)	柴地区環境保全会(下野市)

●活動組織の構成員である「ホタル・カワセミの会」が活動の中心となり、地元のホタル川においてホタルの幼虫放流会を開催した。当日は、地域住民の方や国分寺東小学校の子どもたちなど、多くの参加者がホタル・カワセミの会の指導のもと、ゲンジボタルの幼虫を放流した。

●5月下旬から6月中旬にかけて、幻想的なホタルが見られるよう、ホタル川の環境の保全への意欲が増し、地域のまとまりが一層、強化された。

●要費用:日当、物材費等 約5万円



取組項目	生態系に配慮した施設の保全管理
組織名(市町名)	仲仕上みどりの里(栃木市)

● 赤湊川草刈り

8月、自治会をあげての赤湊川の草刈り活動を行なった。当日は朝早くから農業者のみならず非農業者も積極的に活動に参加し、赤湊川を下流から遡って歩きながら、コカナダモなどの外来水生植物を除草した。活動後には川の流れもそれまで以上に清らかになり、魚類の生息環境の改善が図られるとともに地域のまとまりの意識も醸成された。

●要費用:日当、弁当代等、約21万円

●コウホネの発見、保全活動への意識

赤湊川の水草刈りの活動をとおして、コウホネの存在に気がつき、県立博物館の小倉洋志学芸部長を招き、現地調査を実施したところ、コウホネとナガレコウホネであることが分かった。このことにより、赤湊川の環境保全活動への意識の高揚が図られた。



取組項目	アドバイザーとの連携による各種調査への取組
組織名(市町名)	夢・はにしの里協議会(壬生町)

●構成員20名、一般参加者5名に加え、活動区域内にある羽生田小学校の1年生から6年生の27名に参加してもらい、9月28日に「田んぼ、水路」で生き物調査を実施した。

●調査に際しては、アドバイザーとして桜井正美校長の指導により、生き物調査の方法や種類の特定、周辺の環境と生き物との関係などの説明を受けた。

●終了後、調査結果や生き物の昔と今の違い等について話し合いを行い、「考えていたより多くの生き物がいたね」といった意見が出され、感じたこと、これからの取り組みなど学習の場に活用されるなど有意義な取り組みとなった。

●また、併せてはにしの里杉山会長の指導のもと、水質調査も実施され、子供たちは生き物を守っていくためには水質など、まわりの環境の保全も必要であることを学んだ。

●要費用:網購入費、日当、記念品代、アドバイザー謝礼など、約17万円



取組項目	ホタルを中心とした生きものの調査
組織名(市町名)	早乙女矢口環境保全クラブ(さくら市)

●ほ場整備後に姿が見られなくなった「ホタル」が、近年徐々に見られるようになり、6月17日にホタルの観察会を開いて生息状況の調査や生態について話し合った。

●調査に際しては、活動組織の代表者が作成した資料をもとにホタルの種類の特定、周辺の環境と生きものとの関係などの説明を行った。

●当日は、「地域には、こんなに素晴らしいものがあるのか」「子供が初めてホタルを見て喜んでいた」といった参加した方からの声が出され、楽しい取組となった。

●さらに、9月2日に「田んぼまわりの生き物調査」を実施し、地域の生き物に対するまなざしを育む取組を今後も続けていきたい。

●費用:文具代、日当など、約4万円



取組項目	シモツケコウホネの保全への取組
組織名(市町名)	川井地域農村環境保全会(那須烏山市)

●当地区は、高齢化・後継者不足の問題がある農村地域であり、最近、希薄になった地域コミュニティの回復を目指し活動に取り組んでいる。

●そのような中、当地域には、希少種のシモツケコウホネが生息する水路がある。これを、地域のシンボルとして保全活動を行い、それらの活動を通じ、地域の一体化、地域活性化を図っている。

8月12日には、組織主催で観察会を開催した。地元有識者の小峯さんを招き、シモツケコウホネの希少性や生態について解説をもらった。

●その他、下野新聞を始め、FM栃木、市広報に取り上げられることで、地域全体で関心が高まっている。

費用:飲み物代 等 約1万円



取組項目	ビオトープ整備・景観形成
組織名(市町名)	久那瀬農地水環境保全会(那珂川町)

●活動区域内の和台沢でホタルが生息するなど、良好な環境が残っており、当活動の中で”ホタルの里”として保全する計画である。

しかし、長らく耕作していなかった休耕田があり、初年度は、その回復作業に労力と時間を費やした。

●農村工学研究所 生態工学研究室 森室長から意見を頂き、ホタル保全に関してのポイントを学習した。

また、ホタルと並びヒガンバナの保全も行い、在来種による彩りを加えている。

さらに、隣接する山について、森林環境税の導入を予定しており、そちらとの連携を進め、一体的な地域振興を計画している。

●この沢に係る保全活動を促進費の対象として取り組んでいる。

費用:日当・物材費 等 約30万円

